紀泉高原鳥獣保護区

鳥獣保護区更新調査業務 報告書

令和5年度

大阪府環境農林水産部動物愛護畜産課

目次

1.	調査の目的	2
	 調査区域及び調査対象	
	調査内容	
4.	調査地の概要及び環境	3
5.	調査方法	4
6.	調査結果	6
6-1	現地調査結果	6
6-2	文献・資料調査結果	. 14
7.	まとめ	. 19
8.	参考文献	233

1. 調査の目的

この調査は、紀泉高原鳥獣保護区の存続期間の更新等についての検討資料とするため、その地域における野生鳥獣の生息状況など地域の自然環境に関する基礎資料を得ることを目的とする。

2. 調査区域及び調査対象

紀泉高原鳥獣保護区に生息する野生鳥獣等を調査対象とする。紀泉高原鳥獣保護区の範囲は図 2-1 に示す。

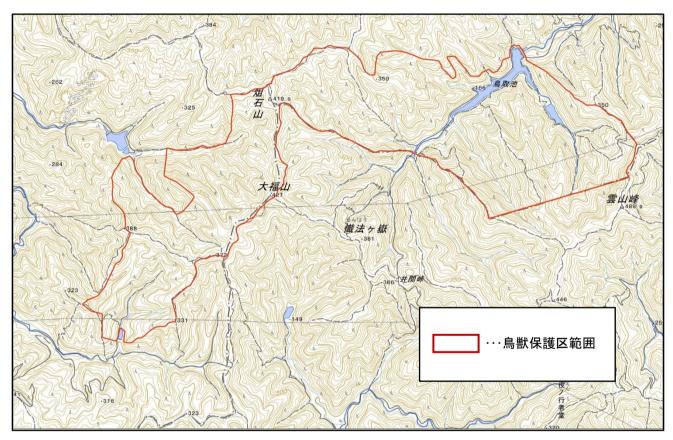


図 2-1 紀泉高原鳥獣保護区の範囲

3. 調査内容

現地調査及び既存データの整理により、下記の事項を把握する。

- ・ 鳥獣生息状況 (リスト作成)、特色
- ・ 利用状況 (施設利用者数など)

4. 調査地の概要及び環境

紀泉高原鳥獣保護区は、大阪府と和歌山県を隔てる和泉山脈の西部に位置し、南側は和歌山県に接する。当該区域は、阪南市、岬町及び和歌山県和歌山市にまたがって国有林に指定されており、この内大阪府側の全域と和歌山県側の一部区域が鳥獣保護区に指定されている。大阪府側の保護区の面積は約305haである。範囲内に鳥取池等の開水面があるが、そのほかは山林となっている。鳥取池周辺はネジキやアラカシ、コナラなどの2次林になっているが、その周辺部の斜面の多くはスギやヒノキの植林が広がり、ソヨゴやヤブニッケイ、ヒサカキ、ツブラジイなどが混ざっている。尾根筋は乾燥しているためにコシダなどが下草として茂り、アカマツやコナラ、ソヨゴ、ネズミサシなど乾燥に強い樹種が低木林を作っている。

鳥獣保護区内では、特に一等三角点を持つ俎石山や大福山は、自然度の高い山として人気が高まり、登山道も整備され、ハイキング、森林浴や憩いの場として、またこの鳥獣保護区に隣接する鳥取池キャンプ場を利用するために、多くの府民に利用されている。

このように、紀泉高原鳥獣保護区は野鳥だけでなく府民にとっても良好な自然環境を維持している地域であり、生物多様性の観点からも重要な地域を含む保護区といえる。

5. 調査方法

調査は、現地調査および文献調査により実施した。

また、現地調査及び文献調査により確認された種から表 5-2 の基準により重要種を抜粋した。

表 5-1 重要種の選定基準

選定基準
絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(種の保存法)
環境省レッドリスト 2020 (環境省 RL)
大阪府レッドリスト 2014(大阪府 RL)

●現地調査

現地調査は、ラインセンサス法と定点観察、任意観察を実施した。調査時期は、繁殖期、秋期(秋の渡りの時期)及び越冬期とした。

ラインセンサス法では、調査ルートを約 2km/h の速度で歩き、片側 25m 両側合わせて 50m の範囲の鳥獣を記録した。調査ルートは、鳥取池北東端から鳥取池北側沿いの登山道を歩き、俎石山へ登る登山道入り口に至るルート R1 (2.29km)、俎板山登山道を紀泉高原の尾根に上がった地点から尾根筋を俎石山経由で大福山まで歩くルート R2 (2.15km)を設定した。

定点観察では、調査定点に 10 分間滞在し、確認された鳥類を記録した。調査地点はラインセンサス R1 東端の鳥取ダム上 P1、ラインセンサス R2 南端の大福山山頂 P2 の 2 地点を設定した。

各ルート及び定点の位置は図 5-1 エラー! 参照元が見つかりません。に示すとおりである。

任意観察では、ラインセンサス法、定点観察法ではとらえにくい種を確認できる地域を中心に探索した。主な対象地はラインセンサスの R1 と R2 をつなぐ登山道等である。

●文献調査

文献調査は、表 5-2 の文献により実施した。なお、本地域は日本野鳥の会大阪支部の観察会は実施されておらず、調査エリアでの鳥獣の記録はほとんどないため、文献調査として、鳥取池で以前より定期的な観察会を行っている「自然と本の会」の記録の聞き取り調査を行った。

表 5-2 参考文献·参照資料

文献 No.	文献・情報名	発行または実施年・発行者
文献 1	大阪府鳥類目録 2016	平成 29 年 日本野鳥の会大阪支部
文献 2	「自然と本の会」聞き取り調査	令和5年6月9日
文献 3	泉南けもの道 第17回 正真正銘の けもの道の果て・鳥取池(阪南市桑畑) でアカゲラとヤマセミを見た.	平成 30 年 大阪鳥類研究グループ会報第 130 号

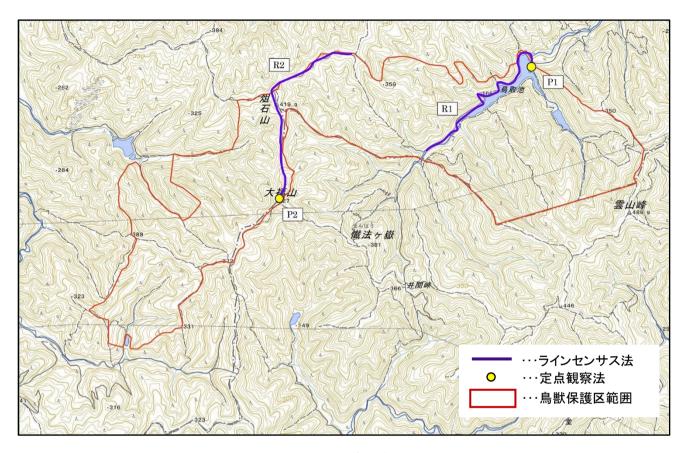


図 5-1 調査地点

6. 調査結果

6-1 現地調査結果

① 調査時期・天候・時間

現地調査時期、天候、調査時間を表 6-1 に示す。

表 6-1 調査時期・天候・調査時間

		7 (DC H)4 =	- ··· ·	
調査時期	調査日時	天候		調査時間
		曇りの ち晴れ	P2	8:32~8:42
	令和 5年 6月3日		R2	8:42~9:20
繁殖期		27144	任意	10:20~11:00
	今和 5 年 6 月 96 日	小雨	P1	8:00~8:10
	令和 5年 6月 26日	小雨	R1	8:10~9:00
	令和 5年 9月 29日		P1	8:00~8:10
		晴れ	R1	8:10~8:55
秋期			任意	8:55~9:50
			R2	9:50~10:44
			P2	10:44~10:54
			P1	8:45~8:55
			R1	8:55~9:55
越冬期	令和 5年 12月 8日	晴れ	任意	9:55~10:53
			R2	10:53~11:03
			P2	11:03~12:20

② 鳥類確認種

現地調査の結果、10目26科45種の鳥類を確認した。確認種の一覧を表6-3に示す。

現地調査で確認した鳥類の渡り区分は、留鳥 25 種、夏鳥 9 種、冬鳥 7 種、旅鳥 2 種、外来種 2 種であり、留鳥 56%、夏鳥 20%、冬鳥 16%、旅鳥 4%、外来種 4%と、一年を通してみられる留鳥が半数を占めた (表 6-2、図 6-1)。渡り区分の分類は、「大阪府鳥類目録 2016」(2017 年 3 月 31 日,日本野鳥の会大阪支部)に従った。

なお、大阪府鳥類目録で旅鳥(一部夏鳥)とされているコサメビタキについては、秋の渡り期にのみ確認されたことから旅鳥として扱った。

また、サンショウクイは夏鳥に分類しているが、近年生息地を北上させている南方系の亜種リュウキュウサンショウクイが冬季のみ確認されている。

表 6-2 渡り区分ごとの種数とその割

渡り区分	種数	割合
留鳥	25 種	56%
夏鳥	9種	20%
冬鳥	7種	16%
旅鳥	2種	4%
外来種	2種	4%
合 計	45 種	100%

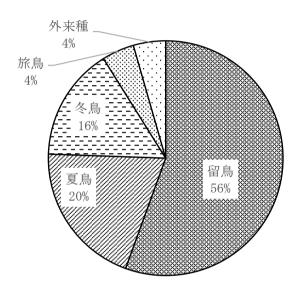


図 6-1 現地調査 渡り区分の内訳

表 6-3 現地調査 鳥類確認種

No.	目 名	科 名	学 名	種 名	繁殖期	秋期	越冬期	渡り区分
1	カモ	カモ	Aythya fuligula	キンクロハジロ			0	冬鳥
2	ハト	ハト	Streptopelia orientalis	キジバト	0	0	0	留鳥
3	カツオドリ	ウ	Phalacrocorax carbo	カワウ	0	0		留鳥
4	ペリカン	サギ	Ardea cinerea	アオサギ	0			留鳥
5	カッコウ	カッコウ	Cuculus poliocephalus	ホトトギス	0			夏鳥
6			Cuculus optatus	ツツドリ	0			夏鳥
7	タカ	ミサゴ	Pandion haliaetus	ミサゴ	0			留鳥
8		タカ	Milvus migrans	トビ			0	留鳥
9			Accipiter gularis	ツミ			0	留鳥
10			Accipiter gentilis	オオタカ			0	留鳥
11			Buteo buteo	ノスリ			0	冬鳥
12	ブッポウソウ	カワセミ	Alcedo atthis	カワセミ	0			留鳥
13	キツツキ	キツツキ	Dendrocopos kizuki	コゲラ	0	0	0	留鳥
14			Picus awokera	アオゲラ	0	0	0	留鳥
15	スズメ	サンショウクイ	Pericrocotus divaricatus	サンショウクイ			0	夏鳥
16		カササギヒタキ	Terpsiphone atrocaudata	サンコウチョウ	0			夏鳥
17		モズ	Lanius bucephalus	モズ			0	留鳥
18		カラス	Garrulus glandarius	カケス		0		留鳥
19			Corvus macrorhynchos	ハシブトガラス	0	0	0	留鳥
20		シジュウカラ	Poecile varius	ヤマガラ	0	0	0	留鳥
21			Periparus ater	ヒガラ			0	留鳥
22			Parus minor	シジュウカラ	0	0	0	留鳥
23		ヒヨドリ	Hypsipetes amaurotis	ヒヨドリ	0	0	0	留鳥
24		ウグイス	Cettia diphone	ウグイス	0	0	0	留鳥
25			Urosphena squameiceps	ヤブサメ	0	0		夏鳥
26		エナガ	Aegithalos caudatus	エナガ	0	0	0	留鳥
27		ムシクイ	Phylloscopus examinandus	オオムシクイ	0			旅鳥
28			Phylloscopus coronatus	センダイムシクイ	0			夏鳥
29		メジロ	Zosterops japonicus	メジロ	0	0	0	留鳥
30		ミソサザイ	Troglodytes troglodytes	ミソサザイ	0			留鳥
31		ヒタキ	Turdus cardis	クロツグミ	0		_	夏鳥
32			Turdus pallidus	シロハラ			0	冬鳥
33			Tarsiger cyanurus	ルリビタキ			0	冬鳥
34			Phoenicurus auroreus	ジョウビタキ			0	冬鳥
35			Muscicapa dauurica	コサメビタキ		0		旅鳥
36			Ficedula narcissina	キビタキ	0			夏鳥
37		In the house	Cyanoptila cyanomelana	オオルリ	0			夏鳥
38		セキレイ	Motacilla cinerea	キセキレイ	0		0	留鳥
39		アトリ	Chloris sinica	カワラヒワ			0	留鳥
40			Pyrrhula pyrrhula	ウソ			0	冬鳥
41		++25-	Eophona personata	イカル	0	0	-	留鳥
42		ホオジロ	Emberiza cioides	ホオジロ	0			留鳥
43	キジ	キジ	Emberiza spodocephala	アオジコジュケイ			0	冬鳥
	スズメ	チメドリ	Bambusicola thoracicus	ソウシチョウ	0	0		外来
45 △≇L			Leiothrix lutea		_		O 55	外来
合計	10 目	26科	45	悝	28 種	17種	26種	_

[・]分類及び配列は「日本鳥類目録 改訂第7版」(2012年、日本鳥学会)に従った。 ・渡り区分の分類は、「大阪府鳥類目録 2016」(2017年3月31日,日本野鳥の会大阪支部)に従った。

③ 鳥類の繁殖状況

(1)

21種

C

(繁殖の可

3種

能性あり)

37

40

50

繁殖期調査において確認された種について、全国鳥類繁殖分布調査における繁殖ランク(NPO 法人バードリサーチ、https://bird-atlas.ip/map.html#voshi)に準じて繁殖可能性を判断した(表 6-4)。

繁殖期調査において 28 種が確認された。このうち、カワウ、アオサギ、オオムシクイの 3 種を除く 25 種については、いずれも繁殖ランク C に該当し、調査範囲及びその周辺で繁殖している可能性が認められた。カワウとアオサギについては、集団で繁殖する習性をもつため繁殖していれば営巣場所(コロニー)が確実に確認できるが、そのようなコロニーが確認できなかった。オオムシクイについては、知床半島とその周辺部でしか繁殖せず、渡りの時期がとても遅いため、繁殖の可能性はないと考えられる。

繁殖の可能性がある 25 種のうち、21 種は現地調査において繁殖を示唆する行動が確認され(繁殖ランクB)、調査範囲内で繁殖している可能性が高い。さらに、カワセミとキビタキの 2 種で繁殖を確認できた(繁殖ランクA)。なお、キビタキは、繁殖ランクA及びBいずれの記録もあるため、繁殖ランクA及びBに該当する種数は 22 種である。

観察 ランク 観察事項 該当種 コード 巣からほとんど移動していないと思 (繁殖を 21 カワセミ、キビタキ われる巣立ちビナを見た 確認) 2種 その種が営巣し得る環境で繁殖期に、 キジバト、ホトトギス、ツツドリ、 その種のさえずり(キツツキ類のドラ コゲラ、アオゲラ、サンコウチョウ、 ミングを含める)を聞いた。ただし、 ヤマガラ、シジュウカラ、ウグイス、 ヤブサメ、センダイムシクイ、メジ 30 その鳥が冬鳥、旅鳥かもしれない時は (繁殖の可 ロ、ミソサザイ、クロツグミ、キビ 除く 能性が高

成鳥がヒナへの餌を運搬しているが、

巣が周囲にあるかどうかわからない

その種が営巣し得る環境で繁殖期に

その種を確認したが、他には繁殖の兆

候が認められない。ただし冬鳥または

旅鳥は過去にその地方で繁殖の記録

家族群を見た

があるもの

表 6-4 鳥類の繁殖状況

タキ、オオルリ、イカル、ホオジロ、

ハシブトガラス、ヒヨドリ、キセキ

ソウシチョウ

シジュウカラ、エナガ

ミサゴ

レイ

[※]全国鳥類繁殖分布調査における繁殖ランク(2014,NPO 法人バードリサーチ https://bird-atlas.jp/map.html#yoshi)を 参照し、該当箇所を抜粋して作成した。

④ ラインセンサス法による鳥類の生息個体数

ラインセンサスによる調査の結果、10 目 23 科 35 種 511 羽の鳥類を確認した。各ルートにおける調査回ごとの記録種及び個体数を表 6-5 に示す。R1では 30 種 359 羽、R2では 21 種 152 羽を確認した。R1 は鳥取池の湖畔の山道がルートとなっているため、森や林の鳥だけでなく、キンクロハジロやカワウ、アオサギ、カワセミのような水辺の鳥も記録した。R2 は乾いた尾根筋の道がルートとなっており、樹種数が少なく林相が単調なため、記録される鳥は少なかったが、高所を飛ぶミサゴやトビなどが記録できた。また、6 月頃に本州を通過して繁殖地に向かうオオムシクイの囀りも記録した。この他、外来種のコジュケイやソウシチョウもよく記録できた。

表 6-5 調査回・ルート毎の確認個体数

		t) b	12			R	21			F	22		4A ⇒1
No.	目 名	科 名	種	名	繁殖期	秋期	越冬期	計	繁殖期	秋期	越冬期	計	総計
1	カモ	カモ	キンクロ				1	1					1
2	ハト	ハト	キジバト			4		4		2		2	6
3	カツオドリ	ウ	カワウ		1	1		2					2
4	ペリカン	サギ	アオサキ		1			1					1
5	カッコウ	カッコウ	ホトトキ		6			6	4			4	10
6			ツツドリ		1			1					1
7	タカ	ミサゴ	ミサゴ						1			1	1
8		タカ	トビ								1	1	1
9	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ		1			1					1
10	キツツキ	キツツキ	コゲラ		6	2	4	12	1	2		3	15
11			アオゲラ		7	1		8	1	1		2	10
12	スズメ	カササギヒタキ	サンコウ	チョウ	3			3					3
13		カラス	カケス			1		1		1		1	2
14			ハシブト	ガラス	2	4	7	13	1	3	3	7	20
15		シジュウカラ	ヤマガラ)	4	4	12	20	9			9	29
16			ヒガラ				2	2					2
17			シジュウ		7	5	8	20	3	3		6	26
18		ヒヨドリ	ヒヨドリ		11	17	22	50	9	9	4	22	72
19		ウグイス	ウグイス	`	10	2	3	15	10		1	11	26
20			ヤブサメ		2	1		3					3
21		エナガ	エナガ		12	8	34	54	7			7	61
22		ムシクイ	オオムシ	/クイ					1			1	1
23			センダイ	ムシクイ	10			10					10
24		メジロ	メジロ		10	19	59	88	16	29	2	47	135
25		ヒタキ	クロツク		2			2	2			2	4
26			シロハラ)							1	1	1
27			ルリビタ	' +			11	11			2	2	13
28			ジョウヒ	ジ タキ			1	1					1
29			オオルリ		3			3					3
30		セキレイ	キセキレ	イ	1		2	3					3
31		アトリ	イカル		2	1		3					3
32		ホオジロ	ホオジロ	!	1			1	1			1	2
33			アオジ				4	4					4
34	キジ	キジ	コジュク	-イ						3		3	3
35	スズメ	チメドリ	ソウシチ	ョウ	8		8	16	8	11		19	35
	10 🗆	22.51	25 TF	種数	23	14	15	30	15	10	7	21	35
	10 目	23科	35 種	個体数	111	70	178	359	74	64	14	152	511

⑤ 定点観察法による鳥類の生息個体数

定点観察法による調査の結果、5 目 19 科 29 種 273 羽の鳥類を確認した。各地点における調査回ごとの記録種及び個体数を表 6-6 に示す。P1 では 19 種 77 羽、P2 では 23 種 196 羽を確認した。P1 はダムサイトであり、見通しがよく、飛来する鳥の目視や囀りの記録がしやすい場所であったが、特に秋期は記録する鳥が少なかった。冬季には近年繁殖地が北上を続けているサンショウクイの亜種リュウキュウサンショウクイを複数羽記録した。P2 は周囲が低い樹木に覆われ、また周りを見渡せる空間も広がっているため、オオタカやノスリが記録でき、秋期には渡りの通過と思われるコサメビタキも記録できた。

表 6-6 調査回・ルート毎の確認個体数

N.T.	目 名	4) 力	1 23	£ b		P	1			F	22		4 Λ ⇒ I.
No.	目 名	科 名	1	重 名	繁殖期	秋期	越冬期	計	繁殖期	秋期	越冬期	計	総計
1	ント	ハト	キジバ	F	1	1		2			1	1	3
2	タカ	タカ	ツミ				1	1					1
3			オオタ	カ							1	1	1
4			ノスリ								1	1	1
5	ブッポウソウ	カワセミ	カワセ	111	1			1	1			1	2
6	キツツキ	キツツキ	コゲラ						1		7	8	8
7			アオゲ	ラ			1	1			1	1	2
8	スズメ	サンショウクイ	サンシ	ョウクイ			4	4					4
9		モズ	モズ				1	1					1
10		カラス	ハシブ	トガラス	1	1		2		11	6	17	19
11		シジュウカラ	ヤマガ	ラ	1		4	5	7		4	11	16
12			シジュ		1		5	6			3	3	9
13		ヒヨドリ	ヒヨド		8	4	7	19	13	2	17	32	51
14		ウグイス	ウグイ		5		1	6	5	1	3	9	15
15			ヤブサ						1			1	1
16		エナガ	エナガ		1		6	7	10		13	23	30
17		ムシクイ	センダ	イムシクイ	3			3	2			2	5
18		メジロ	メジロ		5	4	4	13	15	5	43	63	76
19		ミソサザイ	ミソサ		1			1					1
20		ヒタキ	シロハ	ラ							5	5	5
21			ジョウ	ビタキ			1	1					1
22			コサメ	ビタキ						1		1	1
23			キビタ	キ	1			1	5			5	6
24			オオル	IJ	2			2	1			1	3
25		セキレイ	キセキ	レイ			1	1					1
26		アトリ	カワラ	ヒワ							1	1	1
27			ウソ								3	3	3
28		ホオジロ	ホオジ	口					3			3	3
29		チメドリ	ソウシ	チョウ					1	1	1	3	3
		10 전	20.種	種数	13	4	12	19	13	6	16	23	29
	5 目	19科	29 種	個体数	31	10	36	77	65	21	110	196	273

⑥ 重要種

現地調査で確認された鳥類のうち、重要種に該当する種は3目5科8種であった。なお、サンショウクイは環境省及び大阪府いずれも絶滅危惧 II 類 (VU) 該当種であるが、これは亜種サンショウクイに対して指定されたもので、今回冬期に記録したサンショウクイは無指定の亜種リュウキュウサンショウクイであるため、このリストには入れていない。確認された重要種を表 6-7、確認位置を図 6-2 に示す。

今回の調査では、種の保存法に該当する鳥は確認できなかった。また、環境省レッドリスト記載種は3種、大阪府レッドリスト記載種は6種確認した。なお、重要種のうち、繁殖期に確認したものはツツドリ、ミサゴ、オオムシクイ、センダイムシクイの4種であった。

	次 0 1 神色的で 4 かに 重文 宝						
No.	目 名	科 名	学名	種名	種の 保存法	環境省 RL	大阪府 RL
1	カッコウ	カッコウ	Cuculus optatus	ツツドリ			NT
2	タカ	ミサゴ	Pandion haliaetus	ミサゴ		NT	
3		タカ	Accipiter gularis ツミ				VU
4			Accipiter gentilis オオタカ			NT	NT
5			Buteo buteo	ノスリ			NT
6	スズメ	ムシクイ	Phylloscopus examinandus	オオムシクイ		DD	
7			Phylloscopus coronatus センダイムシクイ				NT
8		ヒタキ	Muscicapa dauurica コサメビタキ				VU
計	3 目	5科	8種		_	3種	6種

表 6-7 確認された重要種

種の保存法 国内希少: 国内希少野生動植物種

レッドリスト VU: 絶滅危惧II類 絶滅の危険が増大している種

NT: 準絶滅危惧種 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては絶滅危惧に移行する可能性のある種

DD:情報不足 評価するだけの情報が不足している種

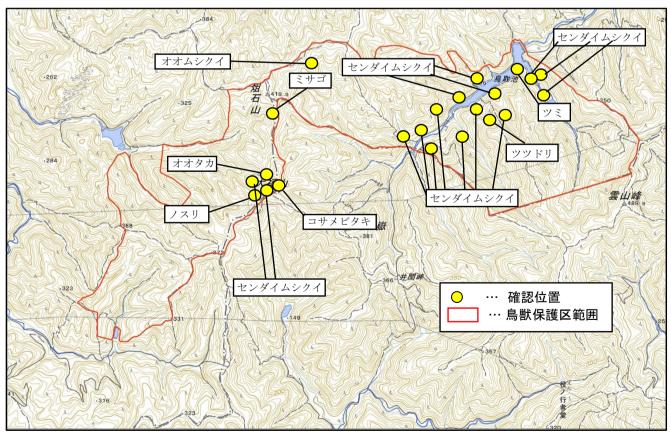


図 6-2 重要種確認位置図(鳥類)

⑦ 哺乳類確認種

現地調査の結果、3 目 4 科 5 種の哺乳類を確認した。確認された哺乳類を表 6-8 に示す。学名・分類 群・配列は「日本の哺乳類 改定 2 版」(東海大学出版会、2008) に従った。

表 6-8 現地調査 哺乳類確認種

No.	目 名	科 名	学 名	種 名	確認状況
1	ウシ	イノシシ	Sus scrofa	イノシシ	掘り跡
2	ネズミ	ネズミ	Apodemus sp.	アカネズミ類	目撃
3		リス	Sciurus lis	ニホンリス	食痕
4	ネコ	イタチ	Martes melampus	ニホンテン	粪
5			Meles anakuma	ニホンアナグマ	粪
合計	3 目	4科	5 🕈	重	

⑧ 哺乳類重要種

文献・資料調査で確認された哺乳類のうち、重要種に該当する種はニホンアナグマの 1 目 1 科 1 種であった。確認された重要種を表 7-9 に示す。

表 6-9 現地調査 哺乳類重要種

No.	目 名	科 名	学 名	種 名	文化財 保護法	種の 保存法	環境省 RL	大阪府 RL
1	ネコ	イタチ	Meles anakuma	ニホンアナグマ				NT
計	1 目	1科	1種		_	_	_	1種

6-2 文献調査結果

文献調査に使用したそれぞれの文献・資料の記載概況を表 6-10 に示す。

表 6-10 文献概要

文献 No.	文献・情報名	文献・情報の内容
文献 1	大阪府鳥類目録 2016	2002 年 4 月~2016 年 3 月までの大阪支部報、むくどり 通信に記載された記録から作成された地域別鳥類リストのうち、紀泉高原(俎石山山麓)を参照。
文献 2	自然と本の会聞き取り調査	1998年より継続的に活動を行っている阪南市自然と本の会が鳥取ダム周辺での観察会を毎年実施しており、令和5年6月9日にその記録の聞き取り調査を行った。
文献 3	泉南けもの道 第17回 正真正 銘のけもの道の果て・鳥取池 (阪南市桑畑) でアカゲラとヤ マセミを見た.	泉南地域を巡視区域としている鳥獣保護管理員(当時) 風間美穂氏が大阪鳥類研究グループ会報に連載してい た記事のうち、第17回(平成30年の会報第130号)に 書かれた鳥取池での観察の記事を参照。

① 鳥類確認種

文献調査の結果、16 目 40 科 99 種の鳥類を確認した。確認種を表 6-12 に示す。文献別では、文献 1 で 83 種、文献 2 で 77 種、文献 3 で 6 種が確認された。

文献調査で確認した鳥類の渡り区分は、留鳥 47 種、夏鳥 16 種、冬鳥 25 種、旅鳥 8 種、外来種 3 種であった(表 6-11、図 6-3)。現地調査に比べ、冬鳥や旅鳥の占める割合が高く、それぞれ 25%と 8%であった。これは、留鳥や夏鳥は繁殖期の囀りなど目立つ行動で記録されやすいのに比べ、旅鳥や冬鳥は年によって渡来の有無や渡来数の増減があるために、本調査のような単年度の各季節 1 回の調査では記録がどうしても少なくなること、短期間の滞在で渡去してしまう場合が多い旅鳥は、集積された文献・資料でのみ確認される種が少なくないためであると思われる。なお、渡り区分の分類は、「大阪府鳥類目録 2016」(2017 年 3 月 31 日,日本野鳥の会大阪支部)に従った。

表 6-11 渡り区分ごとの種数とその割合

渡り区分	種数	割合
留鳥	47 種	47%
夏鳥	16 種	16%
冬鳥	25 種	25%
旅鳥	8種	8%
外来種	3種	3%
合 計	99 種	100%

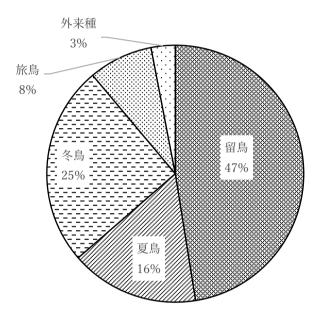


図 6-3 文献調査 渡り区分の内訳

表 6-12 (1) 文献調査 鳥類確認種 (1/2)

No.	目 名	科 名	学 名	種名	文献 1	文献 2	文献 3	渡り区分
1	キジ	キジ	Syrmaticus soemmerringii	ヤマドリ	0	0	3	留鳥
2	, ,	, ,	Phasianus colchicus	キジ	0	0		留鳥
3	カモ	カモ	Aix galericulata	オシドリ	Ō			冬鳥
4			Anas penelope	ヒドリガモ		0		冬鳥
5			Anas platyrhynchos	マガモ	0			冬鳥
6			Anas zonorhyncha	カルガモ		0		留鳥
7			Anas crecca	コガモ		0		冬鳥
8			Aythya ferina	ホシハジロ		0		冬鳥
9	カイツブリ	カイツブリ	Tachybaptus ruficollis	カイツブリ	0	0		留鳥
10	ハト	ハト	Streptopelia orientalis	キジバト	0	0		留鳥
11			Treron sieboldii	アオバト	0	0		留鳥
12	カツオドリ	ウ	Phalacrocorax carbo	カワウ	0			留鳥
13	ペリカン	サギ	Gorsachius goisagi	ミゾゴイ	0	0		夏鳥
14			Nycticorax nycticorax	ゴイサギ	0	0		留鳥
15			Ardea cinerea	アオサギ	0	0		留鳥
16			Ardea alba	ダイサギ	0	0		留鳥
17			Egretta garzetta	コサギ	0	0		留鳥
18	ツル	クイナ	Gallinula chloropus	バン		Ö		留鳥
19	カッコウ	カッコウ	Hierococcyx hyperythrus	ジュウイチ		Ö		旅鳥
20			Cuculus poliocephalus	ホトトギス	0	0	i i	夏鳥
21			Cuculus optatus	ツツドリ	0	0	i i	夏鳥
22	アマツバメ	アマツバメ	Apus pacificus	アマツバメ	0			旅鳥
23			Apus nipalensis	ヒメアマツバメ	 	0		留鳥
24	チドリ	シギ	Actitis hypoleucos	イソシギ		0		留鳥
25	タカ	ミサゴ	Pandion haliaetus	ミサゴ	0	0		留鳥
26	, , ,	タカ	Pernis ptilorhynchus	ハチクマ	0			夏鳥
27			Milvus migrans	トビ	0	0		留鳥
28			Accipiter gularis	ツミ	0			留鳥
29			Accipiter nisus	ハイタカ	0	0		冬鳥
30			Accipiter gentilis	オオタカ	0	0		留鳥
31			Butastur indicus	サシバ	0			夏鳥
32			Buteo buteo	ノスリ	0			冬鳥
33	フクロウ	フクロウ	Otus lempiji	オオコノハズク		0		冬鳥
34	ブッポウソウ	カワセミ	Alcedo atthis	カワセミ	0	0		留鳥
35		,	Megaceryle lugubris	ヤマセミ			0	留鳥
36	キツツキ	キツツキ	Dendrocopos kizuki	コゲラ	0	0		留鳥
37			Dendrocopos leucotos	オオアカゲラ	Ō	0		留鳥
38			Dendrocopos major	アカゲラ	0		0	冬鳥
39			Picus awokera	アオゲラ	0	0		留鳥
40	ハヤブサ	ハヤブサ	Falco tinnunculus	チョウゲンボウ	Ö	Ö		留鳥
41	, , ,	, , ,	Falco peregrinus	ハヤブサ	0	0		留鳥
42	スズメ	ヤイロチョウ	Pitta nympha	ヤイロチョウ	0	0		夏鳥
43	, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	サンショウクイ	Pericrocotus divaricatus	サンショウクイ	T	0		夏鳥
44		カササギヒタキ	Terpsiphone atrocaudata	サンコウチョウ	0	0	0	夏鳥
45		モズ	Lanius bucephalus	モズ	0	0		留鳥
46		カラス	Garrulus glandarius	カケス	0	0		留鳥
47			Corvus corone	ハシボソガラス	0	0		留鳥
48			Corvus macrorhynchos	ハシブトガラス	0	0	<u> </u>	留鳥
49		キクイタダキ	Regulus regulus	キクイタダキ	0	0	<u> </u>	冬鳥
50		シジュウカラ	Poecile varius	ヤマガラ	0		 	留鳥
51		1 / //	Periparus ater	ヒガラ	0	0	<u> </u>	留鳥
52			Parus minor	シジュウカラ	0	0	<u> </u>	留鳥
53		ツバメ	Hirundo rustica	ツバメ	0	0		夏鳥
54			Hirundo daurica	コシアカツバメ	0	0	 	夏鳥
55			Delichon dasypus	イワツバメ	0	0	-	夏鳥
56		ヒヨドリ	Hypsipetes amaurotis	ヒヨドリ	0	0	 	留鳥
57		ウグイス	Cettia diphone	ウグイス	0	0	 	留鳥
58		9717	Urosphena squameiceps	ヤブサメ	0		 	夏鳥
59		エナガ	Aegithalos caudatus	エナガ	0	0	 	留鳥
60		ムシクイ	Phylloscopus xanthodryas	メボソムシクイ	0	0	 	旅鳥
00		ムシソイ	rnyrroscopus xantnoaryas	アかノムンクイ				爪局

表 6-12 (2) 文献調査 鳥類確認種 (2/2)

No.	目 名	科 名	学名	種名	文献 1	文献 2	文献 3	渡り 区分
61	スズメ	ムシクイ	Phylloscopus coronatus	センダイムシクイ	0	0		夏鳥
62		メジロ	Zosterops japonicus	メジロ	0	0		留鳥
63		セッカ	Cisticola juncidis	セッカ		0		留鳥
64		レンジャク	Bombycilla japonica	ヒレンジャク	0			冬鳥
65		ミソサザイ	Troglodytes troglodytes	ミソサザイ	0			留鳥
66		ムクドリ	Spodiopsar cineraceus	ムクドリ	0			留鳥
67		ヒタキ	Zoothera dauma	トラツグミ	0	0		冬鳥
68			Turdus cardis	クロツグミ	0		0	夏鳥
69			Turdus pallidus	シロハラ	0			冬鳥
70			Turdus chrysolaus	アカハラ	0	0		旅鳥
71			Turdus naumanni	ツグミ	0	0		冬鳥
72			Luscinia akahige	コマドリ	0	0		旅鳥
73			Tarsiger cyanurus	ルリビタキ	0	0		冬鳥
74			Phoenicurus auroreus	ジョウビタキ	0	0		冬鳥
75			Saxicola torquatus	ノビタキ		0		旅鳥
76			Monticola solitarius	イソヒヨドリ	0	0		留鳥
77			Muscicapa sibirica	サメビタキ		0		旅鳥
78			Muscicapa dauurica	コサメビタキ	0	0		旅鳥
79			Ficedula narcissina	キビタキ	0	0	0	夏鳥
80			Cyanoptila cyanomelana	オオルリ	0	0	0	夏鳥
81		イワヒバリ	Prunella rubida	カヤクグリ	0			冬鳥
82		スズメ	Passer montanus	スズメ	0	0		留鳥
83		セキレイ	Motacilla cinerea	キセキレイ	0	0		留鳥
84			Motacilla alba	ハクセキレイ	\circ	0		留鳥
85			Motacilla grandis	セグロセキレイ	\circ	0		留鳥
86			Anthus hodgsoni	ビンズイ	\circ			冬鳥
87		アトリ	Chloris sinica	カワラヒワ	\circ	0		留鳥
88			Carduelis spinus	マヒワ	\circ			冬鳥
89			Uragus sibiricus	ベニマシコ		0		冬鳥
90			Pyrrhula pyrrhula	ウソ	0	0		冬鳥
91			Eophona personata	イカル	0	0		留鳥
92		ホオジロ	Emberiza cioides	ホオジロ	0	0		留鳥
93			Emberiza rustica	カシラダカ	0	0		冬鳥
94			Emberiza elegans	ミヤマホオジロ	0			冬鳥
95			Emberiza spodocephala	アオジ	0	0		冬鳥
96			Emberiza variabilis	クロジ	0			冬鳥
97	キジ	キジ	Bambusicola thoracicus	コジュケイ	0	0		外来
98	ハト	ハト	Columba livia	カワラバト		0		外来
				(ドバト)				
99	スズメ	チメドリ	Leiothrix lutea	ソウシチョウ	0	0		外来
合計	16 目	40科	99 種		83 種	77 種	6種	_

[・]分類及び配列は「日本鳥類目録 改訂第7版」 (2012年,日本鳥学会)に従った。 ・渡り区分の分類は、「大阪府鳥類目録 2016」 (2017年3月31日,日本野鳥の会大阪支部)に従った。

② 鳥類重要種

文献調査で確認された鳥類のうち、重要種に該当する種は10目17科24種であった。確認された重 要種を表 6-13 に示す。

今回の調査で、種の保存法記載種が2種、環境省レッドリスト記載種が10種、大阪府レッドリスト 記載種が19種確認された。

表 6-13 確認された重要種

No.	目 名	科 名	学 名	種 名	種の 保存法	環境省 RL	大阪府 RL
1	カモ	カモ	Aix galericulata	オシドリ		DD	
2	ペリカン	サギ	Gorsachius goisagi	ミゾゴイ		VU	VU
3	カッコウ	カッコウ	Cuculus optatus	ツツドリ			NT
4	チドリ	シギ	Actitis hypoleucos	イソシギ			NT
5	タカ	ミサゴ	Pandion haliaetus	ミサゴ		NT	
6		タカ	Pernis ptilorhynchus	ハチクマ		NT	CR+EN
7			Accipiter gularis	ツミ			VU
8			Accipiter nisus	ハイタカ		NT	
9			Accipiter gentilis	オオタカ		NT	NT
10			Butastur indicus	サシバ		VU	CR+EN
11			Buteo buteo	ノスリ			NT
12	フクロウ	フクロウ	Otus lempiji	オオコノハズク			DD
13	ブッポウソウ	カワセミ	Megaceryle lugubris	ヤマセミ			NT
14	キツツキ	キツツキ	Dendrocopos leucotos	オオアカゲラ			NT
15	ハヤブサ	ハヤブサ	Falco peregrinus	ハヤブサ	国内	VU	
16	スズメ	ヤイロチョウ	Pitta nympha	ヤイロチョウ	国内	EN	
17		サンショウクイ	Pericrocotus divaricatus	サンショウクイ		VU	VU
18		ツバメ	Hirundo daurica	コシアカツバメ			NT
19		ムシクイ	Phylloscopus coronatus	センダイムシクイ			NT
20		セッカ	Cisticola juncidis	セッカ			NT
21		ヒタキ	Zoothera dauma	トラツグミ			NT
22			Muscicapa dauurica	コサメビタキ			VU
23		ホオジロ	Emberiza rustica	カシラダカ			NT
24			Emberiza elegans	ミヤマホオジロ			NT
計	10 目	17 科	24 種		2種	10 種	19 種

CR+EN: 絶滅危惧I類 絶滅の危機に瀕している種 VU: 絶滅危惧II類 NT: 準絶滅危惧種 DD: 情報不足 絶滅の危険が増大している種

現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては絶滅危惧に移行する可能性のある種評価するだけの情報が不足している種

③ 哺乳類確認種

文献・資料調査の結果、哺乳類の記録は確認されなかった。

7. まとめ

- 1. 現地調査と文献調査により、16 目 40 科 101 種の鳥類、3 目 4 科 5 種の哺乳類が確認され、そのうち 鳥類 25 種が重要種であった (表 7-1~3)。
- 2. 現地調査の結果、10 目 26 科 45 種の鳥類を確認した。各調査回の確認種数は繁殖期が 28 種、秋期が 17 種、越冬期が 26 種であった。また、確認した鳥類の渡り区分の内訳は、留鳥 56%、夏鳥 20%、冬鳥 16%、旅鳥 4%、外来種 4%であった。繁殖を確認した種(A ランク)は 2 種、繁殖の可能性が高い種(B ランク)は 21 種であった。

ラインセンサス法で記録した鳥類は 10 目 23 科 35 種 511 羽であり、R1 では 30 種 359 羽、R2 では 21 種 152 羽を記録した。定点観察法で記録した鳥類は 5 目 19 科 29 種 273 羽であり、P1 では 19 種 77 羽、P2 では 23 種 196 羽を記録した。

哺乳類は3目4科5種を記録し、このうち重要種はニホンアナグマ1種であった。

- 3. 文献調査の結果、16 目 40 科 99 種の鳥類が確認された。文献別では、文献 1 で 83 種、文献 2 で 77 種、文献 3 で 6 種が確認された。また、確認した鳥類の渡り区分の内訳は、留鳥 47%、夏鳥 16%、冬鳥 25%、旅鳥 8%、外来種 3%であった。現地調査に比べ、冬鳥や旅鳥の占める割合が高く、それぞれ 25% と 8%であった。
- 4. 現地調査における重要種は、鳥類3目6科9種、哺乳類1目1科1種であった。この内訳は、鳥類では環境省レッドリスト記載種4種、大阪府レッドリスト記載種7種、哺乳類は大阪府レッドリスト記載種1種であった。また、文献調査における重要種は鳥類10目17科24種であった。この内訳は鳥類では種の保存法記載種2種、環境省レッドリスト記載種10種、大阪府レッドリスト記載種19種であった。
- 5. 現地調査と文献調査で記録されたミサゴ科 1 種、タカ科 7 種、フクロウ科 1 種、ハヤブサ科 2 種の計 11 種は他の生物を捕食する食物連鎖の最上位に位置する種であり、本地域がダム湖、植林、二次林などこれらの鳥類の生息を可能にする豊かで多様性に富んだ環境であることを示しており、紀泉高原鳥獣保護区は府域の鳥類の生息地として貴重な地域であると言える。
- 6. 紀泉高原鳥獣保護区は、鳥獣の生息地として重要であるだけでなく、府民がハイキングや森林浴などで手軽に利用できる貴重な場所である。隣接する和歌山県の紀泉高原鳥獣保護区と一体として、引き続き多様な自然環境を維持することが必要であると考えられる。

表 7-1 (1) 現地調査・文献調査の鳥類確認種 (1/2)

			(1) 先地侧虫"大脉侧		-			
No.	目 名	科 名	学 名	種 名	繁殖期	現地調査	越冬期	文献調査
1	キジ	キジ	Syrmaticus soemmerringii	ヤマドリ	米/巨列	7/2/791	W-5.291	0
2	, ,	, ,	Phasianus colchicus	キジ				0
3	カモ	カモ	Aix galericulata	オシドリ				0
4	,, <u>-</u>	,, -	Anas penelope	ヒドリガモ				0
5			Anas platyrhynchos	マガモ				0
6			Anas zonorhyncha	カルガモ				0
7			Anas crecca	コガモ				0
8			Avthva ferina	ホシハジロ				0
9			Aythya fuligula	キンクロハジロ			0	
10	カイツブリ	カイツブリ	Tachybaptus ruficollis	カイツブリ			0	0
11	ハト	ハト	Streptopelia orientalis	キジバト	0	0	0	0
12			Treron sieboldii	アオバト			0	0
13	カツオドリ	ウ	Phalacrocorax carbo	カワウ	0	0		0
14	ペリカン	サギ	Gorsachius goisagi	ミゾゴイ				0
15	. , , , , ,		Nycticorax nycticorax	ゴイサギ				0
16			Ardea cinerea	アオサギ	0			0
17			Ardea alba	ダイサギ				0
18			Egretta garzetta	コサギ				0
19	ツル	クイナ	Gallinula chloropus	バン		<u> </u>		0
20	カッコウ	カッコウ	Hierococcyx hyperythrus	ジュウイチ				0
21	7 7 - 7	77-7	Cuculus poliocephalus	ホトトギス	0			0
22			Cuculus politocephalus Cuculus optatus	ツツドリ	0			0
23	アマツバメ	アマツバメ	Apus pacificus	アマツバメ				0
24			Apus nipalensis	ヒメアマツバメ				0
25	チドリ	シギ	Actitis hypoleucos	イソシギ				0
26	タカ	ミサゴ	Pandion haliaetus	ミサゴ	0			0
27	7 N	タカ	Pernis ptilorhynchus	ハチクマ				0
28		7 %	Milvus migrans	トビ			0	0
29			Accipiter gularis	ツミ			0	0
30			Accipiter nisus	ハイタカ				0
31			Accipiter gentilis	オオタカ			0	0
32			Butastur indicus	サシバ				0
33			Buteo buteo	ノスリ			0	0
34	フクロウ	フクロウ	Otus lempiji	オオコノハズク			0	0
35	ブッポウソウ	カワセミ	Alcedo atthis	カワセミ	0			0
36	7 2 4 9 7 9	776	Megaceryle lugubris	ヤマセミ				0
37	キツツキ	キツツキ	Dendrocopos kizuki	コゲラ	0	0	0	0
38	イノノイ	インノイ	Dendrocopos leucotos	オオアカゲラ	0	0	0	0
39			- ·	アカゲラ				
40			Dendrocopos major Picus awokera	アオゲラ	0	0	0	0
41	ハヤブサ	ハヤブサ	Falco tinnunculus	チョウゲンボウ	0	0	0	0
	7 Y 7 9	71479		ハヤブサ				
42	スズメ	ヤイロチョウ	Falco peregrinus	ヤイロチョウ	-	 		0
43			Pitta nympha Pericrocotus divaricatus	サンショウクイ	-	 	0	0
44 45		サンショウクイ カササギヒタキ		サンコウチョウ	0	 	U	0
			Terpsiphone atrocaudata	モズ	1		0	
46		モズ カラス	Lanius bucephalus				U	0
47		<i>µ , ∧</i>	Garrulus glandarius	カケス		0		0
48			Corvus corone	ハシボソガラス				0
49		<i>キカノカガ</i> ン	Corvus macrorhynchos	ハシブトガラス	0	0	0	0
50		キクイタダキ	Regulus regulus	キクイタダキ				0
51		シジュウカラ	Poecile varius	ヤマガラ	0	0	0	0
52			Periparus ater	ヒガラ			0	0
53		W 18.2	Parus minor	シジュウカラ	0	0	0	0
54		ツバメ	Hirundo rustica	ツバメ		 		0
55			Hirundo daurica	コシアカツバメ				0
56		2. = 2027	Delichon dasypus	イワツバメ		_		0
57		ヒヨドリ	Hypsipetes amaurotis	ヒヨドリ	0	0	0	0
58		ウグイス	Cettia diphone	ウグイス	0	0	0	0
59			Urosphena squameiceps	ヤブサメ	0	0		0
60		エナガ	Aegithalos caudatus	エナガ	0	0	0	0

表 7-1 (2) 現地調査・文献調査の鳥類確認種 (2/2)

A		D 6	N 5	W. b. 155 b.	er. h		現地調査		
Phylloscopus xanthodryas	No.		科名	学名	性 名	繁殖期	秋期	越冬期	乂獸調查
Phylloscopus coronatus	61	スズメ	ムシクイ	Phylloscopus examinandus		0			
50	62			Phylloscopus xanthodryas					0
セッカ	63			Phylloscopus coronatus	センダイムシクイ	0			0
1	64		メジロ	Zosterops japonicus	メジロ	0	0	0	0
1	65		セッカ	Cisticola juncidis	_				0
Aクドリ Spodiopsar cineraceus Aクドリ ○	66			Bombycilla japonica	ヒレンジャク				0
E タキ Zoothera dauma	67		ミソサザイ	Troglodytes troglodytes	ミソサザイ	0			0
Turdus cardis	68		ムクドリ	Spodiopsar cineraceus	ムクドリ				0
Turdus pallidus シロハラ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	69		ヒタキ	Zoothera dauma	トラツグミ				0
Turdus chrysolaus アカハラ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	70			Turdus cardis	クロツグミ	0			0
Turdus naumanni	71			Turdus pallidus	シロハラ			0	0
Luscinia akahige	72			Turdus chrysolaus	アカハラ				0
Tarsiger cyanurus	73			Turdus naumanni	ツグミ				0
Phoenicurus auroreus ジョウビタキ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	74			Luscinia akahige	コマドリ				0
Saxicola torquatus	75			Tarsiger cyanurus	ルリビタキ			0	0
78 79 80 80 81 81 81 82 82 83 84 4ワヒバリ Prunella rubida カヤクグリ 85 86 86 87 88 87 88 88 89 7トリ Chloris sinica カワラヒワ 90 91 91 92 93 94 $\pi \pi \pi \Im U$ $\pi \pi \pi \Im U$ $\pi \pi \pi \pi \Im U$ $\pi \pi \pi \pi \Pi U$ $\pi \Pi U$	76			Phoenicurus auroreus	ジョウビタキ			0	0
$ \begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	77			Saxicola torquatus	ノビタキ				0
80 81 82 82 84 86 87 82 82 82 83 84 84 84 84 84 84 84 84 84 84 84 84 84	78			Monticola solitarius	イソヒヨドリ				0
81	79			Muscicapa sibirica	サメビタキ				0
82	80			Muscicapa dauurica	コサメビタキ		0		0
83	81			Ficedula narcissina	キビタキ	0			0
84	82			Cyanoptila cyanomelana	オオルリ	0			0
85 86 87 88 88 87 88 89 90 90 90 90 90 90 90 90 90 90 90 90 90	83		イワヒバリ	Prunella rubida	カヤクグリ				0
86 87 88 88 89 89 89 89 89 89 89 89 89 89 89	84		スズメ	Passer montanus	スズメ				0
87 88 89 9 7 89 89 90 90 90 90 90 90 90 91 91 92 92 93 94 94 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8	85		セキレイ	Motacilla cinerea	キセキレイ	0		0	0
88 8 8 9 9 90 90 90 90 90 90 $Carduelis spinus$ マヒワ	86			Motacilla alba	ハクセキレイ				0
89	87			Motacilla grandis	セグロセキレイ				0
$ \begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	88			Anthus hodgsoni	ビンズイ				0
91 92 93 94 95 96 96 97 98 $Emberiza\ cioides$ $Emberiza\ elegans$ $Emberiza\ spodocephala$ $Emberiza\ variabilis$ Duy	89		アトリ	Chloris sinica	カワラヒワ			0	0
92 $Pyrrhula pyrrhula$ \dot{D} \dot{D} \dot{D} 93 $Eophona personata$ $\dot{A}hh$ \dot{D} 94 $\dot{A}h$ \dot{D} \dot{D} 95 $Emberiza cioides$ $\dot{A}h$ \dot{D} 96 $Emberiza rustica$ \dot{D} \dot{D} 97 $Emberiza elegans$ \dot{C} \dot{C} 98 $Emberiza spodocephala$ \dot{C} \dot{C} 99 \dot{C} \dot{C} \dot{C} 99 \dot{C} \dot{C} \dot{C} 100 \dot{C} \dot{C} \dot{C} 101 \dot{C} \dot{C} \dot{C} 102 \dot{C} \dot{C} \dot{C} 103 \dot{C} \dot{C} \dot{C} 100 \dot{C} \dot{C} <t< td=""><td>90</td><td></td><td></td><td>Carduelis spinus</td><td>マヒワ</td><td></td><td></td><td></td><td>0</td></t<>	90			Carduelis spinus	マヒワ				0
$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	91			Uragus sibiricus	ベニマシコ				0
$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	92			Pyrrhula pyrrhula	ウソ			0	0
$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	93			Eophona personata	イカル	0	0		0
$ \begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	94		ホオジロ	Emberiza cioides	ホオジロ	0			0
$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	95			Emberiza rustica	カシラダカ				0
$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	96			Emberiza elegans					0
$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	97				アオジ			0	0
100 ハト ハト Columba livia カワラバト (ドバト) 101 スズメ チメドリ Leiothrix lutea ソウシチョウ ○ ○	98				クロジ				0
(ドバト) 101 スズメ	99	キジ	キジ	Bambusicola thoracicus	コジュケイ		0		0
(ドバト) 101 スズメ	100	ハト	ハト	Columba livia	カワラバト				0
101 スズメ チメドリ Leiothrix lutea ソウシチョウ 〇 〇 〇									
	101	スズメ	チメドリ	Leiothrix lutea		0	0	0	0
	計	16 目	40 科	101 種		28 種	17 種	26 種	99 種

[・]分類及び配列は「日本鳥類目録 改訂第7版」(2012年,日本鳥学会)に従った。

表 7-2 現地調査・文献調査の哺乳類確認種

No.	目 名	科名	学名	IF b	Ę	文献			
NO.	日石	村 石	子 名	種名	繁殖期	秋期	越冬期	調査	
1	ウシ	イノシシ	Sus scrofa	イノシシ	0	0	0		
2	ネズミ	ネズミ	Apodemus sp.	アカネズミ類		0			
3		リス	Sciurus lis	ニホンリス			0		
4	ネコ	イタチ	Martes melampus	ニホンテン			0		
5			Meles anakuma	ニホンアナグマ			0		
	3 目	4 科	5 種		1種	2種	4種	_	

表 7-3 現地調査・文献調査の鳥類重要種

N.T.	目 名	科 名	学 名	種名 現地調査 文献 種の			種の	環境省	大阪府		
No.	日 名	件 名	子 名	性 名	繁殖期	秋期	越冬期	調査	保存法	RL	RL
1	カモ	カモ	Aix galericulata	オシドリ				0		DD	
2	ペリカン	サギ	Gorsachius goisagi	ミゾゴイ				0		VU	VU
3	カッコウ	カッコウ	Cuculus optatus	ツツドリ	0			0			NT
4	チドリ	シギ	Actitis hypoleucos	イソシギ				0			NT
5	タカ	ミサゴ	Pandion haliaetus	ミサゴ	0			0		NT	
6		タカ	Pernis ptilorhynchus	ハチクマ				0		NT	CR+EN
7			Accipiter gularis	ツミ			0	0			VU
8			Accipiter nisus	ハイタカ				0		NT	
9			Accipiter gentilis	オオタカ			0	0		NT	NT
10			Butastur indicus	サシバ				0		VU	CR+EN
11			Buteo buteo	ノスリ			0	0			NT
12	フクロウ	フクロウ	Otus lempiji	オオコノハズク				0			DD
13	ブッポウソウ	カワセミ	Megaceryle lugubris	ヤマセミ				0			NT
14	キツツキ	キツツキ	Dendrocopos leucotos	オオアカゲラ				0			NT
15	ハヤブサ	ハヤブサ	Falco peregrinus	ハヤブサ				0	国内	VU	
16	スズメ	ヤイロチョウ	Pitta nympha	ヤイロチョウ				0	国内	EN	
17		サンショウクイ	Pericrocotus	サンショウクイ				0		VU	VU
			divaricatus								
18		ツバメ	Hirundo daurica	コシアカツバメ				0			NT
19		ムシクイ	Phylloscopus	オオムシクイ	0					DD	
			examinandus								
20			Phylloscopus coronatus	センダイムシクイ	0			0			NT
21		セッカ	Cisticola juncidis	セッカ				0			NT
22		ヒタキ	Zoothera dauma	トラツグミ				0			NT
23			Muscicapa dauurica	コサメビタキ		0		0			VU
24		ホオジロ	Emberiza rustica	カシラダカ				0		_	NT
25			Emberiza elegans	ミヤマホオジロ				0			NT
計	10 目	17 科	25 種		4種	1種	3種	24種	2種	11種	19種

CR+EN:絶滅危惧I類
VU:絶滅危惧II類
NT:準絶滅危惧種
DD:情報不足絶滅の危機に瀕している種
絶滅の危険が増大している種
現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては絶滅危惧に移行する可能性のある種
評価するだけの情報が不足している種

8. 参考文献

- 1. 「環境省レッドリスト 2020」(2020 年, 環境省)
- 2. 「大阪府レッドリスト 2014」(2014年, 大阪府)
- 3.「「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律施行令の一部を改正する政令」の閣議決 定について」(2019年1月,環境省報道発表資料)
- 4. 「大阪府鳥類目録 2016」(2016 年, 日本野鳥の会大阪支部)
- 5. 「日本鳥類目録 改訂第7版」(2012年,日本鳥学会)
- 6. 「全国鳥類繁殖分布調査における繁殖ランク」(2014年, NPO 法人バードリサーチ) https://bird-atlas.jp/map.html#yoshi
- 7. 「泉南けもの道 第 17 回 正真正銘のけもの道の果て・鳥取池 (阪南市桑畑) でアカゲラとヤマセミを見た.」(2018年,大阪鳥類研究グループ会報,風間美穂)